

# 重度障害児が

## 学ぶ場は

②



鳥取養護・看護師退職問題を追う

看護師の二斉辞職で一部の子童生徒が一時登校できなくなった鳥取県立鳥取養護学校(鳥取市江津)。

保護者からの叱責の他にも、県教委は辞職理由として▽保護者の要望を組織として受け止める体制の不十分さ▽看護師の要望を受け止める窓口の不明確さ――を挙げた。

特別支援学校では通常、保護者からの相談や要望を看護師が直接受け止めることは少なく、養護教諭や医療的ケア担当の教員らが窓口になることが多い。だが、鳥取養護学校ではその役割が十分に果たされていなかった。看護師が管理職や教員と直接コミュニケーションをとる場合も少なく、看護師同士の間で情報共有

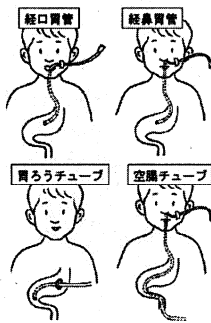
## 看護師と教員 欠けた連携



① たんの吸引などの研修で使われる用具  
② 経管栄養について説明するイラスト  
—いずれも文部科学省のホームページに掲載されているテキストより

▼ ▼ ▼ 各種経管栄養法 ▼ ▼ ▼

- 間歇的経管栄養
  - 口腔ネラトン(経口胃管)
    - 口腔→胃
- 留置チューブによる経管栄養
  - 経鼻胃管
    - 鼻腔→胃
  - 経鼻空腸チューブ
    - 鼻腔→胃→空腸
  - 胃ろうチューブ
    - 瘻孔→胃
  - 腸ろうチューブ
    - 瘻孔→胃→空腸



治医、校医、養護教諭、看護師の間の命令系統があいまいになっているのかもしれない」と話した。一方、県看護協会の関係者によると、辞職した看護師の一人は「もっとやりがいのある仕事がない」と述べたという。

「医療的ケアが看護師だけに委ねられてきた点に問題があったのではないか」。鳥取短大幼児教育保育学科の国本真吾准教授(障害児教育学)はそう推測する。同校の元看護師の一人は取材に対し「自分がいた時はそうではなかったが、今は主

医療的ケア  
経管栄養やたんの吸引、導尿など日常生活に不可欠な生活援助行為。医師法により、医師や、医師の指示の下で看護師が行うが、家族にも認められ、違法性は阻却される。鳥取養護学校では主に「ケアルーム」と呼ばれる部屋で看護師が行い、保護者の希望がある場合などは教室でも実施されている。

教育を担う教員や管理職が領域を住み分けることでチーム体制がなかったことが背景にある」と指摘する。「お互いの職域への知識や理解が足りず、意味をくみ取れなかったり、共感を持っていないこともある」という。

# チームで支える体制を

「重度障害のある子供には特に(看護師と教員が)役割分担せず、全体像を捉えなければならぬ」。小児科医で京都教育大教育学部の郷間英世教授(障害児医学)は指摘する。ケアも含め、子供たちの教育を総合的に支援するためには、看護師も含めた教職員が一緒に「チーム体制」をつくる。その必要性を、鳥取養護学校の問題が改めて示す形となった。【小野まなみ】